

## 『仕事を通して成長する』

## 『一心不乱に働き己を磨く』



高井法博会計事務所 所長  
TACTグループ 関連12社 代表

税理士 高井法博

今年も新入社員が入ってきた。私は採用面

接の時『貴方は何のために働くのですか？』

と聞くことにしている。これは昔ある和尚さ

んから、『一回しかない命、人生を意識して

生きているか？お前の人生の生き方のテーマ

は？』と詰問されたことから、自分自身如何

に生きるべきかを問い続け、色々な素晴らし

い人の伝記、歴史、出逢いを通して、素晴ら

しい人は皆『前向き』『強固な意志を持ち』

『粘り強く』『勉強熱心』『努力家』『常に

人格を磨き』『志を貫いている』と自分なり

に理解した。そうであるならば、誰がどう言

おうが信ずるところを『この一度しかない生

命を十分に大事に使い、汗水たらして前向き

に、燃える意識を持って精一杯生きて行こう』

と思っている。

人間生まれてくることそのものが、まさに

『大海の一針』海の中の針に糸を通すが如き

むつかしい確率であり、生きることそのもの

が永い歴史の中の『預かりもの』で、今私に

この人生を分擔させていただいた訳で、中途

半端な生き方はできないと思う。よく同業者

の方やその他多くの人から、「貴方はほどほ

どに大きくなった、年も五十代の中盤になっ

た、何故それ程夜も夜もなく必死に働くので

すか？貴方は何が楽しみなんですか？」と問

われる。どちらが良い悪いでなく『価値観』

が違ふと思う。私は仕事を通して自分が成長

できると思っているし、一生懸命やってくれ

る社員に、名誉とプライドを持てる職場にし

たいと思う。一流企業で定年まで勤めれば高

額な退職金が出ると聞く。私もその企業以上

に頑張ってくれる人にはそれ位は払いたい

と思う。また、縁あって関与させていただいて

いるお客様に可能な限りのサービスができる

組織にしたいと思うし、お客様、社員の皆さ

んに答えた後は、私自身が見ず知らずの後藤

静一氏に高校を出していただいたように、社

会に對しお返しをしないで死んで喰い逃げ

になってしまふと考えている。あれもしたい

これかもしれない、ただひたむきに一生懸命、

仕事に打ち込んできたつもりである。私を取

り巻く多くの人々のお陰と、幸運にも恵まれ

今のところ曲りなりにも何とかその目標に向

かって進んでいるが、これから更に自分の人

格も事業も今一步上のパラダイムにシフトし

なければならぬ時期に来たかと思っている。

一心不乱に働き己を磨く

今年の日経ビジネス新年号に、私の師事す

る稲盛和夫京セラ名誉会長の次のような文が

載っていた。

「内村鑑三の名著に『代表的日本人』とい

う本があります。その中に、これも有名な話

ですが二宮尊徳のことが書いてあります。い

くつもの荒廃した農村に入っては、鍬一本鋤

一本で朝は朝星、夕方は夕星を仰ぐまで一心

不乱に仕事をし、一番最後に帰るのはどこへ

行っても尊徳だったと。尊徳は貧農の出。独

学で勉強をし農業に打ち込んだわけだが、私

が感動したのは、その尊徳が江戸幕府に用い

られた時、あたかも生まれながらの貴人と見

間違ふほどの立ち居振る舞いであり、言動で

あったというくらいです。一心不乱に仕事に

打ち込むとそこまで人格が高まるのか、逆に

人間を作るのは労働を通じてではないのだ

と、思い当たりました。私は若い頃、プライ

ベートな人生と仕事を分けて考えるべきかど

うかと、大変悩んだ時期がありました。働く

とは生きるための糧を得る手段であり、自分

の人生はまた別のところにある。こう考える

か。そんな時この本に出合ったのです。以

来、働くとは自分を磨くことであり、自分の

人生と仕事を別々に捉えるのはおかしいと考

えるようになりました。」と述べておられる。

仕事を通して成長する

かつて大原簿記専門学校名古屋校の村松校

長先生からも、普通「いい人間がいい仕事を

する。だから仕事はやはり人間が先で、いい

仕事をさせようとする、いい人間を養成し

なければならぬ、と普通の人は言う。だけ

ど実際世の中を見てみると、始めは大した人

でもない人が必死に一心不乱にやっているう

ちにだんだんいい仕事をするようになり、い

つの間にか普通の人が、素晴らしい人に育っ

ている。」と言われた。私もまさにその通り

だと思う。『仕事を通して成長する』今年入っ

てくれた有為の新人が目前の仕事に一生懸

命に取り組み、素晴らしい人間に育ってくれ

ることを心から望んでいる。そのためバツ

クアツプ、助言を精一杯我々はしてやらねば

いけないと思う。たった一度の人生だから。

